

再評価結果(令和8年度事業継続箇所)

担当課:道路局 国道・技術課

担当課長名:西川 昌宏

事業名	地域高規格道路 阿南安芸自動車道 一般国道493号 北川道路1工区	事業区分	一般国道	事業主体	高知県		
起終点	自:高知県安芸郡北川村安倉 至:高知県安芸郡北川村和田			延長	9.0km		
事業概要							
<p>四国8の字ネットワークを構成する阿南安芸自動車道は、徳島県阿南市と高知県安芸市を結ぶ延長110kmの高規格道路である。</p> <p>事業区間の「北川道路1工区」は、北川村安倉から和田までの延長9.0km区間を整備するもので、南海トラフ地震に備え、大災害時の救援活動ルートとして重要な役割を担うとともに、広域的な交流や物流を支え沿線住民の日常的な生活を支援するため、交通障害の解消を目的としている。</p>							
令和3年度事業化		都市計画決定なし		令和5年度用地着手			
令和6年度工事着手							
全体事業費	369億円	事業進捗率	約5%	供用済延長	- km		
計画交通量	3,700~4,000台/日						
費用対効果分析	B/C (事業全体)	EIRR (事業全体)	総費用 (残事業)/(事業全体) 3,778 / 15,049億円		総便益 (残事業)/(事業全体) 6,882 / 16,088億円		基準年 令和7年
	1.1 (0.4)	4.3%	(事業費) : 3,414 / 14,120億円		(走行時間短縮便益) : 5,924 / 13,885億円		
	(参考) 1.5(0.7) [2%]	(0.4%)	(維持管理費) : 319 / 675億円		(走行経費減少便益) : 760 / 1,766億円		
	(参考) 1.8(0.9) [1%]	(残事業)	(更新費) : 45 / 254億円		(交通事故減少便益) : 198 / 437億円		
	1.8(0.5)	8.1%	(事業全体)		(残事業)		
(参考) 2.6(0.7) [2%]	(0.5%)	感度分析	交通量	B/C=1.01~1.1(±10%)	交通量	B/C=1.6~2.1(±10%)	
(参考) 3.1(0.9) [1%]			事業費	B/C=1.04~1.1(±10%)	事業費	B/C=1.7~2.0(±10%)	
			事業期間	B/C=1.03~1.1(±20%)	事業期間	B/C=1.7~1.8(±20%)	
事業の効果等							
<p>① 南海トラフ地震に対して脆弱な道路網 地震・津波等の大規模災害に強い道路ネットワークが形成されることで災害時の救急活動や緊急物資の円滑な輸送に寄与する。</p> <p>② 頻繁に発生する通行規制 通行規制時の大幅迂回が解消されることや、事前通行規制区間の解消による道路の信頼性が向上する。</p> <p>③ 社会インフラとしての機能が不十分 すれ違い困難箇所が解消されることにより、県東部地域の活性化、周遊観光ルートの構築が期待できる。</p>							
関係する地方公共団体等の意見							
<p>四国8の字ネットワーク整備促進四国東南部連盟、高知東部自動車道整備促進期成同盟会、一般国道55号・阿南安芸自動車道整備促進期成同盟会、国道493号整備促進期成同盟会より積極的な要望活動が続けられている。</p>							
事業評価監視委員会の意見							
事業継続を妥当と認める。							

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 周辺環境等に特に変化はない。	
事業の進捗状況、残事業の内容等 事業進捗率約5%、用地取得率約74%	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 橋梁等、重要構造物の設計を進めるとともに、用地買収完了区間の改良工事を推進する。	
施設の構造や工法の変更等 建設発生土の有効活用により、コスト縮減を図る予定。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	事業の必要性、重要性は変わらず、費用対効果も確保されているため。
事業概要図	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。〔 〕内は社会的割引率の値)

(※B/Cの値は、高知JCT～徳島JCTを対象とした場合、()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果。)